総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要（令和3年度）

2. 分野別状況 （2）地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野

	総合評価 （ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算）	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見（主なもの）
あわじ環境未来島特区 （兵庫県、洲本市、 南あわじ市、淡路市）	4.4	4.2 進捗度 ・エネルギー（電力）自給率 110% ・二酸化炭素排出量 130% ・再生可能エネルギー創出量 100% ・竹燃料の消費量 20% ・新規就農者数 91% ・再生利用が可能な荒廃農地面積 114% 等	4.2 <u>規制の特例等</u> ・太陽光発電施設の系統連系に係る迅速な手続の明文化 等 <u>財政支援等</u> ・玉ねぎの島淡路島のSDGs資源循環産業体系構築事業 等 <u>地域独自の取組</u> ・住宅用太陽光発電システム設置費補助金 等	4.5	・淡路島を再生可能エネルギーの「テストアイランド」とする方向で様々な取り組みが行われ、これまで実績を積み重ねてきている。「エネルギー（電力）自給率」については、実績値、進捗度とも着実に上昇傾向にある。また、「二酸化炭素排出量」についても同様であり、いずれも望ましい状況で推移している。「再生可能エネルギー創出量」は、昨年度に初めて進捗度100%を切ったが、実績値が引き続き上昇する中で、進捗度もほぼ100%に回復した。 ・野菜残渣等の廃棄物をバイオマス資源として位置づけたエネルギー利用、荒廃地に繁茂する竹林対策としての竹チップのエネルギー利用で実績があがることが期待される。後者については他に優良事例があれば、そこに学ぶことを考えてもよいかもしれない。 ・R3年度の新規就農者，耕作放棄地，一戸あたりの農業生産額については改善が見られる。新型コロナ下の社会情勢によるところに依存しているところもあるが，特にこれまでも困難であった新規就農者が増加したことは評価できる。 ・農業生産額（農協の野菜販売高）は、大幅に増加したが、タマネギ価格の高騰の影響も大きいだろう。相場の変動に影響されない、着実な経営成長が望まれる。農業生産額（農協の野菜販売高）は、大幅に増加したが、タマネギ価格の高騰の影響も大きいだろう。相場の変動に影響されない、着実な経営成長が望まれる。また、当該地域で力を入れている新規参入者は、農協出荷割合が必ずしも高くないため、新規参入者の経営状況も同様に販売高が増加しているかは不明である。 ・持続人口が伸び悩んでいる。またR2年度以来，観光などが難しい状況が続いているのはやむを得ないところではあるが，アフターコロナを見据えた準備を進め、次のステップに期待したい。